

科目名	認知心理学特論Ⅱ	担当教員	伊藤一美
科目属性	専門科目 C	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<b>【授業の目的・ねらい】</b>			
<p><b>【授業概要】</b> ※認知心理学特論Ⅰと履修の順序は問わない</p> <p>本科目では、認知と言語に着目し、その発達過程にかかわるさまざまな要因について、理解を深めることを目指す。言語は、人間が他者とコミュニケーションをとるために、大変重要なツールのひとつである。従来の発達心理学では、言語の獲得過程は、ひとつの道筋であると考えられていたが、最新の脳科学の成果から、その道筋はさまざまであることが知られている。また、知的障害のある人は言語の獲得とその活用につまずきを示すことが知られており、そのメカニズムを理解することは知的障害の心理を理解することにつながると考える。また、高次脳機能障害により、言語を話したり、理解したりすることに困難さを抱えることがある。これらの言語の諸問題に焦点を当て、とくに、知的障害を含む発達障害を中心とした障害のある人の支援のあり方について研究を深め、教育・医療・福祉のそれぞれの場において、その支援方法を検討できる力をつけることを目指したい。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <p>この授業の具体的な到達目標は、以下の4つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語の獲得過程を理解する</li> <li>2. 言語の障害を理解する</li> <li>3. 知的障害を含む発達障害にみられる言語(聞く, 話す, 読む, 書く)のつまずきの特徴を理解する</li> </ol>			
<b>【授業計画】</b>			
<p>全15回の授業計画は以下のとおりである。</p> <p>第1回 言語の獲得過程(1) 前言語期のコミュニケーション</p> <p>第2回 言語獲得の過程(2) 養育者の役割</p> <p>第3回 言語獲得の過程(3) 共同注意</p> <p>第4回 言語獲得の過程(4) 音韻の発達</p> <p>第5回 言語獲得の過程(5) 語彙獲得の理論的背景</p> <p>第6回 言語獲得の過程(6) 文法と語用論</p> <p>第7回 言語獲得の過程(7) ナラティブと会話能力</p> <p>第8回 読み書きの発達過程(1) 読むことの発達過程</p> <p>第9回 読み書きの発達過程(2) 書くことの発達過程</p> <p>第10回 読み書きの発達過程(3) 読むこと書くことのつまずきの評価</p> <p>第11回 知的障害を含む発達障害のある人にみられる言語障害の理解と評価方法</p> <p>第12回 高次脳機能障害のある人にみられる言語障害の理解と評価方法</p> <p>第13回 知的障害を含む発達障害のある人にみられる言語獲得と読み書きのつまずきの支援</p> <p>第14回 高次脳機能障害のある人にみられる言語障害の支援</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>科目修得試験</p>			
<b>【評価方法】</b>			
<p>「スクーリング評価(事前課題を含む)」(30%)、「レポート評価」(30%)、「科目修得試験」(40%)の割合で総合して評価する。</p>			
<b>【教科書】</b>			
<p>楠見孝(編). (2010). 『現代の認知心理学 3 思考と言語(認知心理学学会監修)』, 北大路書房.</p> <p>大津由紀雄. (1995). 『認知心理学 3 言語』, 東京大学出版会.</p>			
<b>【参考図書】</b>			
<p>秦野悦子・やまだようこ(編著). (1998). 『シリーズ発達と障害を探るコミュニケーションという謎』, ミネルヴァ書房.</p>			